

大会名 Competition	第54回秋田県高等学校新人 バスケットボール選手権大会
NO. A-3	Year Month Day Time 2013 年 1 月 13 日 12 : 00
場 所 Place	三種町琴丘総合体育館



秋田県高等学校体育連盟  
バスケットボール専門部

チーム A		チーム B										
湯沢翔北高	<table border="1"> <tr><td>18 1st</td><td>11</td></tr> <tr><td>20 2nd</td><td>8</td></tr> <tr><td>19 3rd</td><td>15</td></tr> <tr><td>19 4th</td><td>18</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	18 1st	11	20 2nd	8	19 3rd	15	19 4th	18	OT		能代北高
18 1st	11											
20 2nd	8											
19 3rd	15											
19 4th	18											
OT												
76 ○		52 ●										

主審:Referee  
佐藤 匠 (秋田)  
副審:Umpire  
疋田 晋 (秋田)  
テーブル・オフィシャル:Table officials  
秋田県立秋田工業高等学校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4		藤原 麻都		-	-	-	-	-	4	×	今野 唯	CAP	9	0	4	1	0
5	×	大野 真湖	CAP	6	0	3	0	0	5	×	檜森 美樹		14	0	7	0	3
6	×	松田 有紀		11	0	4	3	2	6	×	石川 可奈子		2	0	1	0	1
7	×	阿部 優美香		35	9	3	2	2	7	×	山谷 璃菜		8	0	4	0	2
8	/	高橋 忍		0	0	0	0	1	8	/	石川 南奈子		15	3	3	0	1
9	×	最上 朝香		6	0	3	0	2	9	×	西根 利奈		2	0	1	0	0
10	/	高橋 奈々		0	0	0	0	1	10	/	本間 麗		2	0	1	0	2
11	×	須田 久瑠実		12	2	3	0	0	11	/	加藤 優実		0	0	0	0	0
12	/	佐藤 南		0	0	0	0	0	12	/	瀬川 陽菜		-	-	-	-	-
13	/	佐々木 美咲		0	0	0	0	0	13		福岡 知樹		-	-	-	-	-
14		佐藤 千秋		-	-	-	-	-	14		安田 有花		-	-	-	-	-
15		大山 夏穂		-	-	-	-	-	15		児玉 菜摘		-	-	-	-	-
16	/	柿崎 瑞季		3	1	0	0	0	16		後藤 理紗		-	-	-	-	-
17	/	和泉 華音		3	1	0	0	0	17		鈴木 奈百合		-	-	-	-	-
18		齊藤 楓		-	-	-	-	-	18		斎藤 優里香		-	-	-	-	-
									19		保坂 裕理佳		-	-	-	-	-

コーチ 樋渡 真裕  
Aコーチ 熊谷 傳裕  
合計 76 13 16 5 8

コーチ 杉澤 斉  
Aコーチ 袴田 梨々佳  
合計 52 3 21 1 9

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

決勝リーグ最終戦。29年ぶりの優勝をかけて戦う能代北高と、3年連続12回目の優勝をねらう湯沢翔北高の対戦となった。

第1ピリオド、両チームともにディフェンスはマンツーマンからスタート。開始直後は互いに固かったが湯沢翔北#7阿部の3ポイントやジャンプシュートをきっかけに湯沢翔北が開始5分で12-3とリードする。たまたま能代北はタイムアウトを請求。その後落ち着きを取り戻した能代北は得意のインサイドからのあわせのプレーが徐々に始り18-11の湯沢翔北リードで第1ピリオドを終える。

ゲームが大きく動いたのは第2ピリオド。湯沢翔北の堅いディフェンスに対して攻めあぐねる能代北はターンオーバーからの失点に加え、湯沢翔北#6松田のバスケットカウントや#7阿部の3ポイントシュートで31-17と点差をあげられる。流れを引き戻したい能代北だったが能代北#7山谷のミドルシュートや#4今野のインサイドプレーが決まるも単発に終わり38-19で前半を折り返す。

第3ピリオドが始まって前半の流れは変わらず、出だしから湯沢翔北がリバウンドを支配し44-19と開始5分でさらに点差を広げる。能代北もタイムアウトをきっかけにシュートが決まりだすがなかなか点差を縮めることができず57-34で最終ピリオドをむかえた。

最終第4ピリオドでは、流れの良くなかった能代北がディフェンスのプレッシャーを強め、#4今野のスティールからの速攻を皮切りに本来のスタイルを取り戻し始める。しかし、湯沢翔北はそれにあわてることなく前半のリードを保ち続け76-52と自力の強さを見せた。最終的に湯沢翔北高が決勝リーグを全勝で終わり、湯沢翔北高時代から数え3年連続12回目の優勝を果たした。